亀塚遺跡地元説明会開催について

亀塚遺跡は、国の重要文化財に指定された人面文土器が出土した著名な遺跡です。今回、発掘調査を進めてきた成果を地域住民の方々に見学していただくために、地元説明会を開催いたします。

記

１　日時　平成２８年１２月１７日（土）午前 11 時より１時間程度

２　場所　亀塚遺跡発掘調査現場　安城市東町地内

３　内容　発掘調査でみつかった遺構の説明と見学、出土遺物の展示

４　調査主体（１）委託者　愛知県建設部知立建設事務所
（２）受託者　愛知県教育委員会
（３）調査実施機関　（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
（４）調査支援（株）アート

５　その他当日は説明資料を配布し、３０分程度調査研究員が説明をおこなったのち、現地を見学いただきます。

雨天の場合は中止します（小雨決行）。

（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
担当　永井
電話　080-1571-4985
（株）アート
担当　木村
電話　080-6976-8577

亀塚（かめづか）遺跡発掘調査通信第２号

発行 2016. 12. 1

■遺跡の概要

亀塚遺跡は、鹿乗川流域北部遺跡群の最南端にある遺跡で、鹿乗川を挟んだ東西の沖積地(低地)に立地しています。発掘調査は 1973 年以降、３回行われています。

これまでの調査では弥生時代後期から古墳時代前期の野外炉や杭列、古代の溝、遺物では人面文土器（国の重要文化財）や桜皮巻土器（県指定文化財）のほか、銅鏃・竪櫛・水銀朱を塗りつぶした石杵、尾張・駿河・畿内地域の外来系土器、鳥形木製品・鳥形土器など祭祀に関わる遺物などが発見されています。

■今回の発掘調査

11 月末現在、発掘は近世(江戸時代)以降の時代の調査を行っています。重機と人力による表土（近現代の堆積土）の掘削後、近世以降の人々が暮らしていた生活面（遺構確認面）を検出しました。遺構は柱穴・用途不明の小穴約 40 基、耕作関連の溝状遺構１条、土坑２基などが発見されました。また、調査区内の側溝・トレンチの断面観察から少なくとも３本以上

の自然流路（河川跡）が確認できています。これらの自然流路から中世～近世の陶磁器が出土しているので中世以降は埋没したものと推測が出来ます。今後の調査で、これらの自然流路の形成・埋没過程と廃絶時期を明らかにしていくことが課題の一つになります。

さて、亀塚遺跡で主体となる時期は弥生時代後期から古墳時代前期です。過去に行った調査地点に近接しているため、多量の弥生土器や古墳時代の土器が出土すると予想していました。しかし、側溝やトレンチを現地表面から約 1.5m掘っても、当該時期の遺物包含層（堆積層）が発見されず、遺構やまとまった遺物は発見されていません。これについては、調査区全体が前述した自然流路によって削られ、当該時期の堆積層が流出したためと推測しています。

■地元説明会の開催

地元説明会を 2016 年 12 月 17 日（土）、午前 11：00 より開催いたします。なお、十分な駐車場はご用意できませんので、公共交通機関や自転車・徒歩にてお越しください。小雨決行となります。どうぞ、ご近所の皆様と御誘い合せてのご来場をお待ちしております。

発注者：(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
施工者：株式会社アート　愛知支店

■調査区全景(北から撮影)　※白線が掘削前の遺構